

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

杉ノ子第三保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水と光と音

<テーマの設定理由>

・水遊びを楽しむ中で、ペットボトルの中に水を入れては出す動作を繰り返していた中で、水が入るときの音、こぼれるときの音、光が映ることに気付き、発見していたところから、光や影、音をテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

7.8月 水遊びにて桶やペットボトルを用意し、音・光を探す。

9月 机・雨等周りの生活の中での音探し。

ライトテーブルを用いた活動。

10月 ライトテーブルを用いた活動。

園行事にて保護者にも体験してもらう。

11月 音の出る玩具で音を出す。

書画カメラ・プロジェクターを用いた光遊び。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもが自由に道具、素材を使えるような環境設定をした。

ペットボトル、白い桶、じょうろ、カップ、オルガン、音の出る玩具、白い布、色水ペットボトル、マーブリング液、テント、書画カメラ、プロジェクター、ミラーマット、ライトテーブル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

水遊びでの気付きや発見を水に光を当てたら、子どもたちは何に気付いていくのかを探究していくため、ライトテーブル、書画カメラ、ペットボトルを用いて、活動していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「なんだろう」と不思議そうにじっくりと観察したり、発見したり、考え工夫しながら、水を通して色や光、音へと探究活動が広がっていった。何かを見つける度に保育士に教えていた。一人の子どもがやり始めたことを真似ている姿が見られた。

・影に気づき触ってみようとする



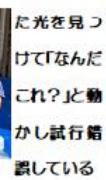
・光と影に気づき試している



・色水を覗いている



・色のついに光を見つけて「なんだこれ？」と驚かし試行錯誤している



・色水を混ぜていくうちに偶然むらさき色になったことに気づいた



水遊び、色水遊びでの発見を室内でも探究していくため、ライトテーブルを使用することにした。

① 色水ペットボトルのみ

・色水を覗いたりペットボトルを振ってできた泡を観察している



・透明のペットボトルの向こう側に透けてうつる色に気づく



前目に加え、

- ・スライム
- ・カラーセロハン
- ・様々な素材の紙(和紙や不織布等)を準備した。

② 色水ペットボトル+アクリル板

・色を重ねると色が変わることに気づく



・ペットボトルをひっくり返す



・自分で考えながら、カラーセロハンや和紙を試し、どのように見えるのを楽しんでいる



園内親子参加型行事で親子で体験できるすくわくブースを実施。



マープリング

「わあー！きれい」



音遊び

音の出るもちゃで音の違いを体験する。

「入っているのが違うから、鳴っているのも違うよ。」



「ねずみのおと」
(高い音)
「だめきのおと」
(低い音)



じっくり赤を観察していた。



ボトル内の気泡に気づき、気泡を「お化け」と言う。

上からのぞき、側面からも見て「黄色になった」



「何でボトルを逆さにしたの？」という問いかけに、「見えるように」と返す。
※彼女の側面からの観察や、ボトルを逆さにした見方は、他児に影響を与えた。



青と黄色のボトルを並べ、何かに気づき、じっくり観察していた。



自分の好きな色を手にとると、友だちの観察を見て、自分も試していた。



様々な方向から見ていた。



ボトルの向きを変えたり、重ねて見ているうちに、4つ目の色「緑」が見つかった。
※そこから、色探しが始まった。



黄色と青で緑、赤と青で紫、赤と黄色でオレンジを見つけた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの目線、子どもの味方に寄り添うことで大人にとっては当たり前のことが、ワクワクする感動になることを感じた。丁寧に対象物と出会えるようにする、出会いはシンプル、というアドバイスをいただき、園内の共有と考察を経て、活動に取り組むことができた。好奇心を持つきっかけとなったり、アイデアを共有したり考えを深めるような問いや言葉がけ、関りを心掛けていきたいと思った。

